

地域小学校の総合的な学習を通じたまちづくり～日本橋学生工房の活動を通じて～*

Practice of urban education in community using the Synthetic Learning Class in elementary school ~ NIHONBASHA Students Factory of activity ~ *

鈴木葉子**

By Yoko SUZUKI

1. はじめに

近年、地域住民がまちづくりに関わる「場」が増えている。今後は地域の活性化や福祉、環境問題などへの関心の高まりとともに、住民の自主参加や協働がより重要になる。しかし、現在の住民参加型まちづくりは、まちづくりの「場」はあるが限られた地域住民しか関与していない。そのため、地域住民のまちに対する嗜好が集約し難い。

本来は、地域住民の自主的なまちづくりに繋がるような「場」が形成されることがまちづくりの真の姿だと考える。そのためには、まちづくりに関わる「場」が自主的に組織され、永続的に受け継がれることが必要であり、場当たりの啓蒙ではなく、長期的なまちづくりの理念や思想を含めた教育が重要となる。

この実践に向けて、まちへの関心を高めるために小学校からのまちづくり授業を行った。最終的には、まちの人も小学校の授業を通して様々なまちの変化や動きを肌で感じてもらうことにより、まち全体のまちづくりの関心を高めるような波及効果的な役割を担うことも目的としている。

2. 小学校におけるまちづくり授業の試み

(1) 地域の小学校に関わるまでの経緯

日本橋の活性化に取り組む学生団体である日本橋学生工房は、政策研究大学院の森地茂教授の発案により、学生の視点で日本橋地区のまちづくりについて考え、調査や地元との交流を通して様々な提言を行うことを目的として設立された学生主体の組織である。国土交通省関東地方整備局東京国道事務所から資金援助、大学教員や財団の専門家からアドバイスを頂いて活動を行ってきた。

*キーワード：市民参加、地域計画、地区計画

**正員、株式会社 道路計画

(東京都新宿区新宿2-13-10武蔵野ビル3階
TEL03-3357-9220E-mail y_suzuki@doro.co.jp)

日本橋学生工房では、地域が協力する行事である『橋洗い』や『全国子供橋サミット』、『ラジオ体操』、『遠泳合宿』のお手伝いなどを通してまちの中に溶け込むとともに日本橋の課題を明らかにし日本橋の活性化に取り組んできた。そして、このような行事を通し小学校はじめ地域との信頼関係を築き、まちづくりの「場」として、昨年9月に総合学習へのお手伝いではなくコミュニティー・ティーチャーが実現に至った。

(2) 『まちづくり授業』設計について

まちづくり授業の設計ポイント

- () 子どもの大人には無い柔軟な発想を縮小しない程度に規制や条件を提供し、実現可能な提案ができる授業を演出
- () 子どもの授業に対するモチベーションを維持できるよう、集中できる課題や休憩のタイミングを考慮して授業を設計
- () 授業に留まらず、自宅へ持ち帰り調べる作業や模型材料の収集などができる課題を設定し、家庭内でまちのことを話す場を演出
- () 小学校内の授業に留めず、保護者はじめ地域の方々に発表する場を演出
- () 小学校の年間行事を考慮した授業運営

図-1 授業設計のポイント

授業設計にあたっては、日向市の町おこしの一環として取り組まれたまちづくり授業¹⁾や世田谷まちづくりセンターが実施している子どもを対象としたまちづくり²⁾を参考にした。その際に現場の教員はじめ関係者の方々に、小学校の教員から外部の人が授業などに関わることへの弊害に関するヒアリング調査を実施した。その結果、外部の

人が授業に関わることは、子どもたちを混乱し兼ねないこと、短期的な授業のためにその後の授業設計を小学校教員が対応しなければならないこと、小学校の治安面から外部の人の管理が難しいこと、があった。これらを考慮した上で、実際に小学校と関わった。

まず、計画の段階では、小学校教員の方々が責任者と担当者になる外部の人の人柄を理解していただくことに力を注いだ。そのために、前節で述べたように地域行事や小学校行事に参加した。そこでは、小学校の学校方針や教育理念を現場で理解した。

つぎに、単発的な授業ではなく長期的かつ広域的な授業を目指した。そのために、2 学期に授業を実施した。具体的な授業の流れは、授業設計をする上では5 点を考慮し(図-1) 授業カリキュラムを設定している(表-1)。

(3) 『まちづくり授業』の実施

今回の『まちづくりの授業』は、まちの歴史や文化に関する授業や工作技法もある程度身に付いた高学年を対象にしている。日本橋地域の小学校である東京都中央区立常盤小学校の5 年生の総合的な学習である。この授業では、日本橋のまちが未来を考える機会と新たな日本橋まちづくりのあり方を考えること、小学生を中心に保護者や教員、地域住民と学生工房がいっしょにまちづくりを考えられるようなテーマ「日本橋の未来を考える」を設定した。

授業の実施にあたっては、日本橋学生工房単独ではなく多くの方々の支援体制をとっている(図-2)。また、毎回の授業内容は、小学校の校長先生や教頭先生、担任の先生に様々なアドバイスをいただいた。さらに、この授業を通じて日本橋の未来模型作成の達成感とまちの中での自分たちの役割を意識させ、子どもの声を地域住民へ発表する「場」を演出した。この発表会には、地域住民が約30 人、地元企業約10 人、行政約10 人、保護者約170 人に来場していただいた。

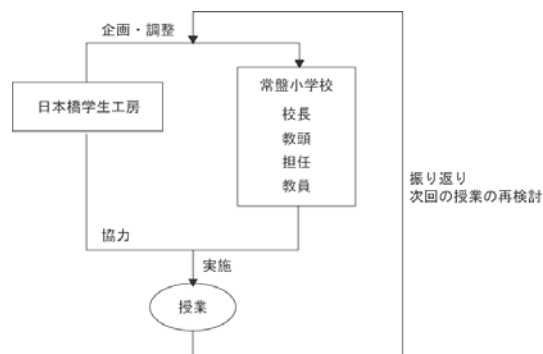


図-2 『まちづくり授業』の実施体制



写真-1 授業風景

表-1 授業設計の概要

授業のながれ	日 時	コマ数	授業内容	備考
日本橋のまちづくりについて まちの現状を理解し、まちへの関心を高める	9月8日	2コマ	日本橋のまちの説明	
	9月15日	2コマ	調べ学習	
まち歩き 実際にまちを歩くことでまちを身近に感じ、現状を把握する	9月22日	4コマ	まち歩き	
まちを理解する まちというスケール感を身に付け、アイデアを表現する	9月29日	2コマ	グループ分けとグループでの問題点の整理	
	10月8日	2コマ	大学職員によるまちづくりの授業	
	10月13日	2コマ	提案作り	
	10月20日	3コマ	まち歩き	
	10月27日	2コマ	地図づくり（模型の下地作り）	社会科見学授業
	11月4日	2コマ	地図づくり（模型の下地作り）	
模型作り 自分たちのアイデアを形にする	11月6日	2コマ	中間発表会	保護者参観日
	11月11日	4コマ	模型作り	
	11月17日	3コマ	模型作り	
	11月24日	3コマ	模型作り	
	12月1日	3コマ	模型作り	
発表会 頑張った成果をみんなに発表する	12月8日	3コマ	模型作り	
	12月9日	2コマ	発表会のリハーサル	
	12月10日		最終校内発表会	
	3月7日		地域参加の最終発表会	

3. まちづくりの授業の評価

(1) アンケート調査結果

今回の授業を実施にあたり、計8回のアンケートを行った。アンケートは、1つ目は毎回の授業に対するアンケート、2つ目は授業を終了しての日本橋というまちに対するアンケートを実施した。なお、2つ目のアンケートは保護者にも実施した。特に小学生のアンケートは、手書きで作成し、楽しく回答できる演出を行った(図-3)。まちづくり授業が終わってから「日本橋を良くするために何がしたいですか?」との質問項目に対して、小学生の大半が身近なゴミ拾いから自分達で将来のまちを中央区へ提案をしたいという日本橋まちづくり活動を実施したいと回答した(図-4)。また、高学年である小学5年として下級生へ伝えたいというまちづくりへの伝承の可能性も感じた。さらに、まちづくり授業を通じてまちづくりに関心をもったと回答した親子は、全体の85%であった(表-2)。

図-3 小学生用の手作りアンケート一例

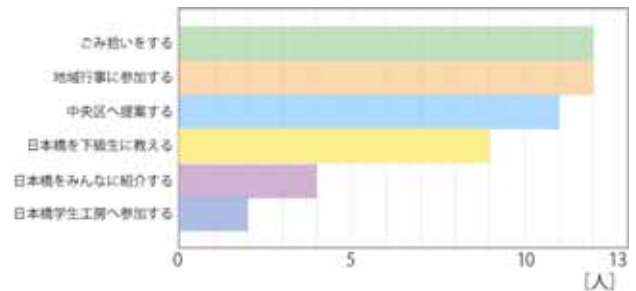


図-4 今後日本橋を良くするためにしたいこと

表-2 親子のまちづくり授業後のまちづくりへの意識変化

		小学生			
		すごく変わった	変わった	やや変わった	変わらない
保護者	高まった	13%	33%	8%	4%
	やや高まった	4%	4%	13%	4%
	どちらともいえない	4%	4%	0%	4%
	あまり変わらない	0%	0%	0%	4%

(2) まちづくり授業を通しての子ども達の姿勢

日本橋のまちづくりの関心を育むだけでなく、自分達が住んでいるまちへの関心も同様に高まっていた。また、まちづくりの授業後の感想文と日本橋学生工房に子どもたちがお手紙を頂いた。非常に子どもなりにまちづくりを真剣に捉えていた。

本来は筆者が感想や総評すべきなのだが、実際の小学生の感想文を抜粋したものをそのまま載せる。是非、各自が読んでまちづくりの授業と子どもの将来へのまちづくりへの担い手としての可能性を感じて頂きたい。

【感想1】

模型作りをして「日本橋をもっと今より明るくきれいで良い所にしたい」という気持ちになりました。そのためには、ゴミ拾いなど自分のことからしていこうと思いました。

【感想2】

一番やっていて楽しかった事は模型作りでした。未来の日本橋を考えて模型を作るのは簡単かな～と思ってたけどやってみるとすごく難しくて、こんなに難しいのか～と思い勉強になりました。

【感想3】

いい所や悪い所を見つけ、みんなで考え、いい所はもっとよく、悪い所は直し、模型を作ったり学校で発表し学校のみんなに考えた事を伝えた事が心に残りました。

(3) 総合学習のまちづくりを通じての大人への影響について

保護者にとって

保護者参観日では、保護者の方が授業に参画したり、コメントをしたりする光景が非常に興味深かった。また、両親で参加している方もいた。まちづくり授業後の保護者に対するアンケートでは、「この授業をきっかけに日本橋に興味を持った」と回答した保護者は全体の 70%に達し、地元発表会では、全校保護者の 95%の来場をみた。

この授業を通して、保護者は家庭内での会話や子どもと一緒にまち歩き、宿題に取り組むなど、子どもと過ごす時間が増し、特に子どもが生き生きとした姿が、保護者の日本橋への関心を向上させるなど、子どもへ対するまちづくり授業は保護者への影響力にも繋がることを確信した。

先生にとって

この授業を実施する際、小学校教職員は小学生が新たな総合的な学習の関心やモチベーションを高めること、小学校教職員以外の方が授業に関わるために小学生が混乱することを心配されていた。

しかし、実施者が献身的に子どもと向き合う姿や子どものモチベーションが高まる姿をみることで、小学校教職員の方々も徐々に理解を示すようになった。授業の中盤からは、小学 5 年の担任だけでなく図工の先生に授業をサポートして頂き、図工材料やパソコンルーム使用等の授業に関する用具の提供も頂けた。まちづくり授業後の小学校教職員の感想は、「地域社会への入口がより広がった」、「低学年が小学 5 年生のまちづくり授業への憧れが非常に高まっていた」、「この授業を通して小学 5 年生が非常に成長した。」などであった。

地域の人にとって

地元の方々は地元発表会に 30 名に来場して頂き、その発表会に参加した方々の感想は、「子どもたちが非常に考えてくれたことで自分たちもまちづくりを考えるきっかけになった。」といった意見が多かった。また、数多くのメディアにも取り上げられている(図 - 5)。



図 - 5 毎日新聞に掲載されたまちづくりの授業

(4) 今後の課題

この授業では、2つの課題があったと考える。ひとつは、小学校という教育現場に外部者が入ることである。今回は、大学生という利害なく勉強の一環としてまちづくり授業に携わった。小学校教職員は、大学生というこれからの社会を担う若者という前向きな姿勢で協力を頂いた。また、大学生は、小学生と歳が近く柔軟に対応できるネットワークが良かった。このようなまちづくり授業を実施する際には、大学生という比較的時間に余裕ある立場が非常に有効であると考ええる。

もうひとつは、大学生が小学生を指導することを懸念する部分もあったことである。まちづくりの授業に関する技術やプロセスを支援するツールが少ないことである。今後は、北海道の「北の道物語」のような道に関する教科書や行政の派遣先生などを活用し、地域独自のマニュアルの作成が必要であると考ええる。

4. おわりに

このまちづくり授業を実施したことで、子供たちのまちへの愛着心が芽生えることでまちへの関心が高まった。今後、この授業をきっかけとして新たなまちへの関心を向上させる「場」を考える必要がある。そして、授業だけに留まらず、より社会へ繋がる体制も必要となると考える。小学校だけでなくまちの人や地方の人の関心を高めることができ、波及効果は予想以上であった。今後は、地域にあったまちづくり授業へと発展させたいと考えている。

謝辞

このまちづくり授業の実施にあたり、小学校の校長先生はじめとする小学校教員、PTA、保護者、地元町会のお力添えのお陰で実施することができた。また、日本橋学生工房の活動にあたりアドバイザーである森地茂教授はじめ岩倉成志教授、福田敦教授には貴重なご指導ご鞭撻を頂いた。この場を借りて心より感謝申し上げる次第である。

参考文献

- 1) 内藤 廣; [2004]; 建築的思考のゆくえ; 王国社
- 2) (財) 世田谷区都市整備公社まちづくりセンター [2002] 参加のデザイン道具箱 part4 子どもの参加
- 3) 柏井 一成, 梶井 貢, 森地 茂; [2005]; 日本橋地域における小学校でのまちづくり活動報告; 第 60 回土木学会年次講演会(投稿中)